



「聖人のことばを思い起こし力づけられて」

マリア会 アンドレア 高田裕和

今年4月27日（日）に列聖された教皇ヨハネ・パウロ2世と個人謁見が許された時の話です。私は教皇様に自己紹介の後、木寅師がまとめたシャミナード師の本を差し上げようとしたところ、表紙の写真をご覧になり、「シャミナード神父様ですね。」「はい。昨年9月に列福していただきました。ありがとうございます。」「福者シャミナード神父様のことはよく覚えています。現代の教会にとって、福者が示したことは非常に大切なことです。あなたたちマリアニストには、現代の社会、教会にとって大事な使命が委ねられています。福者シャミナードの精神を、現代社会の中で忠実に具体的に生きてください。『時のしるし』を識別しそれにこたえるのがマリアニストのカリスマでしょ。すべてのマリアニスト、特に日本のマリアニストに祝福を送ります。」「ありがとうございます。」教皇様は、数ページをめくりながら、「直接読めないのが残念だけど」とおっしゃり、祝福してくださいました。



教皇様が、「マリアニストは現代社会の中で大切な使命を持っている。忠実にその召命に生きるように」と励ましてくださったこと。教皇様自身が創立者のことをご存じであったこと。その使命が現代社会にとって大きな使命を持っていると語られたこと。その一つひとつに驚き、感動したことを今でも思い出します。

創立200年に向けて、現実には横たわる課題が山積している今、聖人となった教皇の言葉が私たち日本のマリアニストを新たに励まし力づけ、新しい一歩を歩み始めるための原動力となることを願います。21世紀の日本社会は、私たちマリアニストに何を求めているのでしょうか。私たちマリアニストは、日本の現実の中で、何を「時のしるし」として読み取り識別して、その必要にこたえようとするのでしょうか。私たちがマリアニストの召命と使命に忠実であるために、源泉に立ち帰りたいものです。それを困難とする第一の要因は、私たち一人ひとりに起因するのかもしれない。

今年7月、ローマで行われた召命養成担当者会議の中で「ミッションのないところには召命はない。」との言葉がありました。ミッションをどのようにとらえるか、召命をどのようにとらえるかは、様々な見解があると思います。マリアニストの使命、マリアニストの召命にどのように応じようとしているか。私たちに固有な使命と召命、それが明確になればなるほど、現代社会にあって、マリアニストとしての存在は深い意味を持つことになります。

混沌とする現代社会だからこそ、教会に対しても、社会に対しても、マリアニストがその存在をかけて使命を生きる時、私たちのミッションはより鮮明になって豊かな広がりを持ち、マリアニストの召命に共感する人が増えていくのではないのでしょうか。マリアニストのカリスマである「時のしるし」を読み違えない限りにおいて。

修道会の会員の高齢化を前にして

マリア会地区長 青木 勲

ベネディクト・フォーラムのお蔭で、幾つかの修道会が、会員の減少化と高齢化に伴い、長く携わってきた宣教事業を手放して、長い識別の末、幾多の犠牲と困難を伴う重大な意志決定をし、聖ベネディクト会の精神に沿って「観想生活」に専念しながら、真剣に生き続けておられる姿を身近に知ることができました。今夏、そのうちの一つの修道会の年の大黙想の手伝いの機会を得て一週間滞在し、祈りと食事を共にする貴重な体験をさせていただきました。

会員の高齢化が進んでいるマリア会にとっても無関心ではおれない問題ですので、私なりの感想と感じたことを読者の皆様と分かち合いたいと思います。

本来「宣教会」であるマリア会が将来、宣教事業体を閉鎖して、「観想修道会」になることは直ぐには考えられません。しかし退職後、加齢の結果で活動生活から引退した会員たちが、一つの修道院で一緒に共同生活を営む可能性は十分にあります。その場合、

1) 今迄忙しく動き廻ってきた時のような外的な刺激が不足し、4つの壁に囲まれた修道院内での人間関係の緊張感と軋轢が敏感に感じられ、精神疾患やストレスが溜まることありえます。逆に今までより時間的余裕ができるので、新たに時間の利用を工夫して祈りや読書、自分に合った心の糧となる精神的な豊かさを培うことが大切になります。今まで余り気にしなかった他人の存在を邪魔に感じたり、苦痛に感じたりすることも起ります。今こそ、何故自分が修道生活を選んだのか、自分なりの修道生活の再総合と再統一をする必要があります。そして煩わしく感じる他人の存在が、自分にとって恵みの存在に変わる時、修道生活の深さと尊さが見えてくるはずです。

2) また、私たちの身体的老化現象が進む反面、他方、修道生活には、普通の結婚生活に見られるような関係の変化（青年 - 結婚 - 夫婦 - 父母 -

祖父母）がなく、ある意味で、終身現役という肩の荷を下ろせない部分があります。そのため、何時までたっても一種の競争心やライバル意識が見え隠れして良い「枯れ方」をせず醜態を曝け出していることも多々あります。この点でもイエスの生き方の模範に照準を合わせてもう一度、何時でも他人を心から赦せるキリストの心と魂を私たちの心の中に注入して頂く必要があります。

3) もう一つの現実的な足枷は、経済的制限です。修道会に入るすべての収入源の減少は、直接、毎日の生活様式とリズムに具体的な変化をもたらします。食事の献立から、衣食住の備品の購入管理と諸雑費、必要な交通費や自動車の使用にまで広く影響を及ぼします。改めて修道会の現在の所有財産と将来に至るその管理・使用に関する清貧と節約の実施要領の再確認とその基本財産の遵守と確保への共同責任の更新が求められます。現代人として、物に対する解脱と心の自由性は訓練なしにはできません。時には難しく厳しい鍛錬も必要なのかもしれません。

4) 最後に、会員の新陳代謝のないところでの長上職は、大変な十字架です。年齢的に若い会員が長上に任命されればされるほど、本人にとっての緊張感は大変なものです。かつての自分の長上たちの上に立って、現実的判断と決定や指示を与えることは決して簡単ではありません。同様に、以前の長上も、自分よりはるかに年が若い長上に従うためには謙遜と従順の努力なしにはできません。誰かが担わなければならない宿命的な奉仕の十字架ですが全員の協力なしには実現できません。そこにまた修道生活が持つもう一つの平等に関する超自然的性格が示されます。修道生活の素晴らしさの一つは、誰かが、ある時期、一つの奉仕職を勤めますが、任務が終了すればまた一兵卒に戻れる平等性と自由さです。私たちもいつ何時、このような状況に陥るとも限りません、今からある程度の心の準備をしておくのが賢明でしょう。

2014年8月30日

最近の出来事から

MLC 会長 梁川厚行

わたしは、中学高等学校の教員ですが、「情報」の授業であった出来事をお話ししましょう。

「プレゼンテーション」に関して高校生に実施していました。ひとりずつ前を出てきて自分で決めたことに関して1分以上、日本語で話す。さらにひとことでよいので英語でも話すというようにしました。英語で話すのは初めての試みでしたのでどうなるかなと一抹の不安もあったのですが、そのような不安はすぐに消えてしまいました。海外経験者が数人いて、中には「わたしはカナダで生まれ、そこで育ちました」とか、「長期の休みには、さまざまな国に行くのが楽しみです」という強者までいました。英語が苦手な生徒はそれなりに一生懸命練習して話すし、ネイティブの人ではないかと思われるように上手に時間いっぱい話した生徒がいて驚きました。英語が話せる人が育っているのだという実感がしました。英語はひとことでよいと話したのに、生徒は、大変楽しそうに英語のスピーチに挑戦していました。

ところが、その反面、どうしても話したくない。前に出て話すのは嫌ですという生徒が2クラスに1名ずついました。仮にAさん、Bさんとします。わたしは、このような授業を何年かやってきたのですが「嫌です」と言われたのは初めてでした。

どうしたらよいのだろうかと思ったあげく、Aさんには周りの生徒に、「手伝ってあげて」と話しました。すると、仲の良い友達がひとりAさんのそばに寄り添って、「いつもの通り話せばいいんだよ」とやさしく話しかけていました。やがて、その友達が「わたしがAさんの話の通訳をするから」といって、無事、Aさんの小さな声の日本語をもとに皆にわかるように付け加えて話してもらえました。そのAさんが後で感想に、「これからは、話せるようになるように努力します。」と書いてあって、安心しました。

さて、Bさんのほうは、「話すのが嫌であれば紙に書いて提出してください」と話しました。そうしたらきちんと書いてはきたのですが、内容を見て唖然としてしまいました。「……」とわけのわからない関係ないことが書いてあったのです。次の授業の時に、そのBさんに昼休みに職員室に来るように話しました。そこで、「なぜあんなことを書いたのですか？」と尋ねたら、「先生にわたしを覚えてもらいたかった」と話したのです。……

わたしは、この二人への対応に関して考えてみました。Aさんは友達に何とか解決してもらえな

いかと協力をあおぎ、うまく行きました。Bさんには「話すのが嫌であれば紙に書いて提出してください」と話しましたが、友達の目を気にしていて、なにかすっきりしなかったのかもしれない。

ここで私は重要なことに気がつきました。Aさんには、わたしが解決しようとしなくて、解決策をクラスの仲間に頼みました。まずはAさんを受け入れ、話してほしいというこちらの希望を述べて、Aさんの心の動きを待ったのです。それに反してBさんには、暗黙のうちに「皆の前でプレゼンをしなくてよい」というメッセージを送ってしまっていたのです。努力しようとする余裕すら与えていなかったのです。明らかにAさんの方がうまくいきました。何でも自分で解決しようとしなくて、しばらく待ってみる、多くの人を借りること、お互いに協力することが大切であるということに改めて気づかされたのです。

ところで、ふとしたことから、教皇パウロ六世の、「人々は教師より証人を必要としています。証人とは人々を知り、愛し、ありのままの姿を受け入れ、人々の内に働いている聖霊に気づき、協力するために共にいる人です。」という言葉を見つけました。このことは、日常生活の多くの面に言えるように思えてきました。教師であるとともに証人であること、証人であるとは、生徒のありのままの姿を受け入れ、生徒の心の中に働いている聖霊に気づき、協力するために共にいることです。今回の事例では、Aさん、Bさんの「発表するのは嫌だ」というありのままの姿を受け入れ、彼らに「発表してほしいのだが」と希望を述べて、彼らの心の中に働いている聖霊に気づくことでしよう。そして協力する姿勢が大切だということです。まずは、ありのままに受け入れること。ここが出発点でしょう。これは、神様の愛の姿です。「今のままでいいのだよ！ 安心しなさい」。この気持ちを、忘れないようにしたいと思いました。

なお、ドイツの授業では、積極的に発言するかどうかに重点をおいていて、そのことが成績とも連動しているそうです。確かに、生徒が嬉しそうにがんばっている授業では、積極的な発言があるのです。生徒が積極的に発言するような雰囲気づくりも必要です。生徒達に自分の考えを話すことができる力、自立できる力を育てることは、日々の積み重ねで育ちます。このことはこれからの課題のひとつであると思いました。

「あなたたちもわたしのぶどう園に行きなさい」^(*)という主の呼びかけが聞こえてきます。主のぶどう園には待ち受けているたくさん仕事があるので、だれも、何もしないわけにはいかないのです。主は、わたしたちを「わたしのぶどう園に行きなさい」と繰り返し、繰り返し、強く招いておられるのが聞こえてきませんか。

注^(*) 教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的勸告 「信徒の召命と使命」3 参照



楽しかった思い出

アリアンス・マリアル 田中正江

早いもので今年もまた、世界マリアニスト祈りの日が訪れようとしています。昨年の祈りの日は、長崎の被爆のマリアが巡礼地として選ばれ、多くの日本と韓国のマリアニスト達が長崎で祈りの集いを過ごしましたが、私にとっては、初めてのマリアニスト家族の方々と巡礼となり、とてもかけがえのない、楽しい思い出となりました。

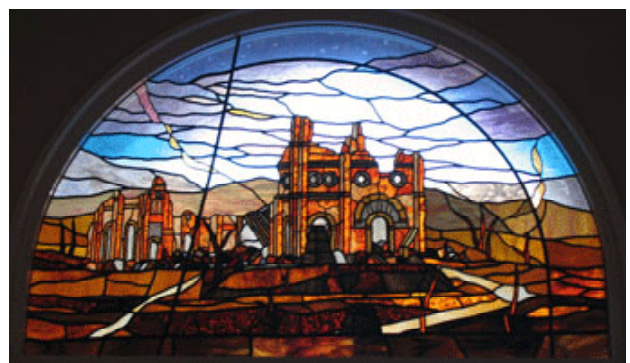
この度は私にとって3度目の長崎への旅行となりましたが、私にとって長崎は本当に大好きな街で、信仰への熱意を深めてくれる街です。その長崎でマリアニスト家族と過ごせたことは、今でもうれしく思っています。私はその巡礼にあたり、その巡礼のお陰で、三度の楽しい時を持つことが出来ました。一度目はマリアニスト巡礼のために長崎に行くにあたり、ガイドブックや時刻表を眺めながら、それに合わせて、長崎のどの場所を、教会を訪れようかと、思い巡らしながら計画していた時。二度目は実際に長崎の被爆のマリアの下で、マリアニスト家族の方々と共に祈り、分かち合ったり、その集いの後に親しいSMとMLCの方と共に、一緒に花火や夜景を見たり、おいしいものを食べたり、巡礼地を訪れた時。三度目はその時に撮影した写真を見ながら、その時の楽しかった思い出、様々な光景に心を馳せながら、一度も訪れたことの無い、恐らくこれからも訪れる可能性の少ない、世界のアリアンス・マリアルのメンバー達に、長崎の巡礼地の魅力を、どのように伝えたらいいだろうか、どの写真を載せようなどと思索しながら、記事を書いていた時。

そして、この三度の時がこんなにも楽しかったのは、一人旅ではなく、「家族」という暖かい絆の中で旅をすることが出来たからだ、共に過ごさせていただいた方々への感謝の中で、改めて感じています。

この度のマリアニスト巡礼地は「被爆のマリア」ということで、二度とこの地球で、原子爆弾による被害者が新たに生まれることのないように、核兵器の廃絶という「平和への願い」が中心的なテーマであったことを考えると、「楽しかった」という思いは、不謹慎なように思われるかもしれませんが、けれども私はこの度の集いで気づいたのです。原爆が投下される直前、敗戦の色が日本中に色濃くなり、不安と悲しみと生活苦を強いられる中で、多くの人が願っていた「平和」というのは、

辛い中でも必死に見出そうとしていたのは、家族と共に過ごすささやかな幸せで、本当の平和というのは、それを守る原動力はその積み重ねの上にあるということ。

皆様にも経験があるかもしれませんが、「楽しかった思い出」というのは、私に不思議な程、力と勇気を与えてくれました。私がアリアンス・マリアルへの入会を希望したとき、まだ日本のマリアニスト家族の中には、その痕跡は全くありませんでした。その情報すら個人的には全く手になることが出来ませんでした。ただ世界のマリアニスト家族の中には、「アリアンス・マリアル」という在俗会が存在するという事実だけでした。そのような中で、私にアリアンス・マリアルへ志願する決心をさせたものは、誰かに説得されたからでもなく、様々な事を思い巡らして一大決心をした結果ではなく、「楽しかった」からです。MLCのグループの一つであるソダリティーを通して誘われて初めて参加した新年のマリアニスト家族の集いが、とても楽しかったからです。神父様やブラザーやシスターの方々、信徒の方々が、その立場を超えて、共に家族として集い、食事をし、語り合う・・・小教区の教会という枠の中だけで信仰生活をすごしてきた私にとっては、思いもよらないことでした。本当に楽しい時間でした。そしてどうしても、マリアニストとして生きたい、マリアニスト家族の中で在俗修道者として生きたいと、強く思ったのです。マリアニスト家族の中での楽しい思い出が、たった一人の日本人会員というハンデも、日本語を使えないというハンデも、その他周囲の方々が思われているような困難も受け入れ、アリアンス・マリアルに志願する勇気と力を与えてくれたのです。



■ 年間計画

8月	Web更新（ホワイエも含む）を開始しました。
10月	12日 世界マリアニスト祈りの日：アルゼンチンの家族と共に祈ります。
11月	9日 マリアニスト家族としての慰霊ミサと講演会 調布修道院にて同時に、MLC懇親会も行います。
12月	クリスマス献金（今年は、Sr.吉村の行かれている大船渡でのクリスマスイベントに、子供たちのプレゼントのための資金も送ります。皆様よろしくお願いたします。）
1月	18日 マリアニスト家族の集い 暁星学園にて
2月	リーダー教育（勉強会）
3月	召命祈願日を皆で祈ります。

■ 「信徒マリアニストの手引き」14年ぶりに改版される

最近、「信徒マリアニストの手引き」の改版を手掛けています。現在、皆様がお使いの冊子は、2000年に初代会長の長濱さんが、Sr.小林様と清水神父様のご協力を受けて作成されたものです。今回は、坂野さんをはじめとした旧評議委員の皆様のご意見を伺った上で、白濱さん、汐瀬さん、平井さん、林さんにご協力を賜って編集委員会を編成して案を作成しました。その案を、清水神父とSr.小林のご意見をもとに追加変更をおこなって原案を作成しました。皆様の大変なご協力に感謝しております。ありがとうございました。先日の代表者会議で承認され、これから、印刷に入る予定です。幸い、好意的な意見が多く編集部一同ほっとしているところです。ぜひ、多くの方々のご活用されることを祈っております。

さらにうれしいニュースがあります。白濱さんが、6月28日にシャミナード修道院にて清水神父様司式で奉献式を実施しました（右写真）。おめでとうございます。これからも、奉献者が増えるように、信徒マリアニストの手引きにも、このマリアへの奉献の箇所に信徒マリアニストの成長の歩みを付け加えました。マリアニストの召命と使命を果たしていくために大変に重要な個所です。奉献されておられる方も、これから考えておられる方も、どうぞご参考になさってください幸いです。



■ 正式にパチカンから承認されている信徒マリアニストの意見をローマでの会議に

わたしたちのMLC（信徒マリアニスト共同体）は、世界的な規模のカトリック教会の公式な組織です。パチカンで信頼のおける組織として、仮承認期間を経て2006年2月22日に正式に承認されています。マリアニストのWebページにその文書を掲載しましたので、ご覧になってください。今年の11月にローマで信徒のために教皇庁が主催して「教会の動向と新しい共同体会議」が開催されます。信徒マリアニスト国際機構（IO-MLC）を代表してフェリックス・アルケロス代表と北アメリカ・アジア地域代表のスーザン・ヴォートさんが、この会議に出席します。

全世界のMLCでは、「信徒マリアニストとは誰ですか？」という課題を検討し続けています。どのようにして信徒マリアニストになり、信徒の集まりは、どのようにして信徒マリアニスト共同体に成長していくのでしょうか。ローマで11月9日から15日まで開催される今回の共同体会議で、この課題を取り上げる予定です。日本MLCでもこの課題に取り組み、ぜひ、日本の意見を参加される方に伝えたいと思っております。わたしたちマリアニストのカリスマに敬意を払いつつ、マリアへの奉献 - 契約の意味を今ひとつ振り返り、皆様のご意見をお聞かせください。

SM ニュース

■ SM志願者、大船渡でボランティア・・・・・・・・・・・・・・・・

7月23日～25日の三日間、Sr. 吉村がスタッフとして働いているカリタス大船渡ベースのボランティアに参加しました。夜行バスで早朝に到着した初日は、牡蠣の養殖漁師さんの仕事場でまる一日、出荷の準備作業。二日目は牧場の草刈り。三日目は障害者の方の引っ越し作業の手伝いと家の周辺の草刈り。日本語の勉強で毎日、頭がいっぱいの志願者たちにとっては、体を使った慣れた仕事で生きいきと過ごした三日間でした。震災と津波の話をして現場を体験し、また、牧場では原発事故の放射能の影響で牧草を牛に食べさせることができなかつたことなどを知り、それにもかかわらず、力強く生きている現場の人々から大きな感銘を受けました。



■ 長崎、大阪の共同体訪問・・・・・・・・・・・・・・・・



夏休みを利用して、志願者たちは8月7日～13日の一週間、長崎の海星修道院、小ヶ倉教会、大阪の明星修道院を訪問しました。マリア会にとって海星修道院と明星修道院は長い歴史を有しており、また、日本の教会にとっても大きな意味を持っています。ベトナムから来日した志願者たちは小教区で育ち、その体験が長いので、長崎における教会とマリア会の歴史に触れ、また、小ヶ倉小教区の信徒の皆さんとのふれ合いによって、深い印象を心に刻みました。また、大阪では大阪大司教区における明星修道院の占める位置づけにも触れました。奈良と京都の短い訪問を通して日本文化の源流、華ともいえる文物にも触れることができました。この夏の体験が志願者たちの日本理解と成長に役立つことを期待します。

■ SM召命・養成担当者会議（ローマ）・・・・・・・・・・・・・・・・

7月7日～17日、ローマ総本部で世界の召命・養成担当者会議が開催されました。この会議は2012年総会で要請されたもので、この種の会議としては初めて、各管区・地区の本部から霊生部長と教育部長も参加し、日本からは青木師（教育部長）、清水師（霊生部長、志願者担当）、高田師（召命責任者）、デービッド士（通訳）の4名が参加しました。内容は、1997年1月に総本部でまとめられた「マリア会養成指針」全体を検討し、訂正・追加などを話し合うことでした。

密度の濃い会議から、今後の召命司牧と養成に役立てたいと思います。

FMI ニュース

■ 大黙想・・・・・・・・・・・・・・・・

8月に実施された大黙想は、ローマから、霊生局長のアンドレ・フェテイス師を迎え、「アデルに倣って、知り、愛し、仕える」のテーマのもと、アデルの生涯と霊性を深める機会となりました。

マリア会の兄弟たちも参加して、家庭的な雰囲気の中で行われました。



■ 誓願式・・・・・・・・・・・・・・・・

8月25日（月）大黙想後、青木神父様主式による有期誓願宣立、終生誓願式、誓願25・50・60周年感謝ミサが行われました。

終生誓願式に参列するため、ベトナムから Sr ホンのお母様とお兄様も来日されて、喜びを共にされました。



有期誓願式



終生誓願式・指輪の授与

終生誓願者 Sr ホンの感謝の手紙

この手紙は、私たち姉妹にあてられたものですが、彼女の気持ちがよく表現されていると思いますので、ここに掲載させていただきます。



感謝!!!

「主よ、全ての恵みに対して私はどのようにお返しできるのでしょうか」

この詩篇をお借りして私の感謝の気持ちを皆様にお送りしたいと思います。

シスター伊藤管区長様、
シスターの皆様

この間 終生誓願式の中で、皆様がわたしをマリアニスト家族の一員として受け入れてくださったことを心より感謝申し上げます。皆様の日々の支えのお陰で、わたしは主イエス・キリストと永遠の絆を結ぶことが出来ました。

今になって、過ごした平凡な日々の恵みを考えると、神様がどれほど愛してくださったことかをしみじみ感じています。神様の働きはマリアニスト家族、特にシスターの皆様を通してわたしをもっと幸せにしてくださったことです。9年前に、日本のことが全く知らないわたしを受け入れて、これまで 私を同伴し、養成してくださいました。そのおかげで、わたしは人間的にも霊的にも成長してきました。そして、今日多くの方々の前で、主イエス・キリストと終生誓願を立てさせて頂きました。そのぐらい勇気を持てるのも、やはり皆様から頂いた家庭的な愛情があるからです。この母性を忘れないものになりたいと思います。そして、これからの生活の中で、皆様のようにお母さんの役割、母性をもって生きていきたいと思っています。

そして、シスター伊藤管区長様をはじめ、コンセイメンバーの皆様、シスターの皆様へ感謝すべきことがあります。それはわたしの終生誓願式に母と兄、姉妹を招いてくださったことです。母がわたしたちの住んでいるところを見られるのは夢にも思ったことはありませんでした。幸いに、人生の中で、母は一度娘たちの生活環境を自分の目で見られて、ほっとしたようです。母と家族もそうですし、わたしも皆様に感謝しています。

神様からの数々の恵みと皆様から頂いた支えはいくら書いても終わらないのですが、わたしの心に刻んで、感謝し、お祈りします。そして、精一杯奉仕していきたいと思っています。

これから新しい歩みが始まります。マリア様の娘として皆様と共にマリアニストの使命を喜んで果たしていきたいと思っています。

皆様、わたしを支え続けて頂きたいと思っています。今後もよろしく願いいたします。

感謝を込めて

2014年8月25日

マリア・レ ティ ホン

■ トゥオンさん、ポストラン期（前修練期）開始・・・

1年前に来日し、日本語学校に通いながら志願期を過ごして来たトゥオンさんは、3日間の準備の黙想の後、9月15日の晩の祈りの中で、ポストラントとして正式に受け入れられ、前修練期を開始しました。

皆様のお祈りをお願いいたします。



■ 黙想会のお知らせ

半日黙想会 イエスを見つめて ②

指 導：青木 勲 神父様 (マリア会)
日 時：2014年11月8日(土)14:00～17:30
プログラムの最後に、ミサ (日曜日の
典 礼) があります。
場 所：汚れなきマリア修道会 マリアンハウス
修道院「マリアニスト宣教センター」
〒182-0016 調布市佐須町5-28-6
対 象：どなたでも
締 切：2014年11月1日 (土)
申 込：住所、氏名、所属教会、メールアドレス、
携帯番号を記入の上、Eメール、あるい
は電話で申し込んでください。
メールアドレス：marianist@marianist.jp
080-5873-6637：黙想担当 Sr小林

青年のための練成会 「福音の喜びを生きる」

日 時：2014年11月22日(土)14:00～
23日(日)16:00
【開始時間】ご都合に合わせて選択してください。
① 14:00「奉獻生活者年」のミサ
(司式：岡田武夫大司教 イグナチオ教会)
に参加後、会場 (町田) へ。
② 17:45 直接、会場 (町田) へ。
場 所：汚れなきマリア修道会 町田修道院
〒194-0032 東京都町田市本町田
3050-1 Tel.042-722-6301
対 象：18歳～35歳の未婚の男女
(年齢については相談に応じます。)
費 用：3,000円 (当日徴収)
定 員：15名 (先着順)
締 切：2014年11月16日 (日)
申 込：住所、氏名、年齢、所属教会、メール
アドレス、携帯番号などを記入の上、
ファックス・Eメールのいずれかで
申し込んでください。
メールアドレス：marianist@marianist.jp
Fax：042-481-1644
担当：Sr小林 (携帯：080-5873-6637)

韓国人対象 1日黙想会 イエスの徳について
② 言葉

指 導：Sr.レジナ金 春玉 (汚れなきマリア修道会)
日 時：2014年11月29日 (土) 10時～16時
プログラムの最後に、ミサがあります。
場 所：汚れなきマリア修道会 マリアンハウス
修道院「マリアニスト宣教センター」
〒182-0016 調布市佐須町5-28-6
対 象：韓国人一般
定 員：20名
費 用：1,800円 (昼食代込み)
締 切：2014年11月23日 (日)
申 込：住所、氏名、所属教会、メールアドレス、
携帯番号を記入の上、Eメール、あるい
は担当者 (Srレジナ金) に直接申し込
んでください。
メールアドレス：regina@marianist.jp
042-391-4952：Sr.レジナ(p.m7:00～9:00)

■ その他

- 世界マリアニスト祈りの日：
10月12日 (日)
- マリアニスト慰霊ミサ&講演会：
11月9日 (日) 調布修道院
- マリアニスト家族の集い：
2015年1月18日 (日)
於：暁星学園聖堂



発行：日本マリアニスト家族評議会
問い合わせメール：marianist@marianist.jp
ホームページ：<http://www.marianist.jp/>